



ちせうてつぼう 朝鮮半島製の鉄の斧。溶かした金
鑄造鉄斧 屑を鑄型に流し込んで作られます。
 鹿児島県内での出土例は、埋葬遺跡では大崎町の
 双子塚遺跡、指宿市成川遺跡、集落遺跡では指宿
 市尾長谷迫遺跡のみです。



てつけん たんけん
鉄剣 (短剣)



いはじょうてつぼう
板状鉄斧

敷領遺跡の土器捨て場からは「鉄剣」や「板状鉄斧」などの鉄器、そして住居からは、朝鮮半島製の鉄器である「鑄造鉄斧」が出土しています。これらは、古墳に葬られる有力者が入手するような稀少品です。土器捨て場や住居からこれらの貴重な鉄器が出土する背景には、祭祀的な意味合いがあったものと考えられます。敷領遺跡は、古墳時代の祭祀行為を示す遺跡としても注目されます。

日本列島最南端の古墳「弥次ヶ湯古墳」と同時期の集落発見！

発掘調査地点から東に約 700m に位置する県営弥次ヶ湯団地内には、日本列島最南端の古墳「弥次ヶ湯古墳」があります。直径 17.5m の円墳であり、平成 8 年度に発見され、古墳築造の希薄な薩摩半島における発見として注目されました。これまで古墳を造営した人々の集落は見つかっていませんでしたが、市営敷領団地建て替え事業に伴う発掘調査において、弥次ヶ湯古墳の築造時期と同じ、古墳時代中期後半（5 世紀後半）の大規模集落が発見されたのです。弥次ヶ湯古墳と集落の関係性を明らかにし、古墳時代の社会像に迫ることが、今後の研の課題となっています。



敷領遺跡の時代

【歴史年表】



敷領遺跡 第 31 次発掘調査



令和 7 年 3 月 9 日
 遺跡見学会資料



指宿市考古博物館
 時遊館 COCCO はしむれ



敷領遺跡について

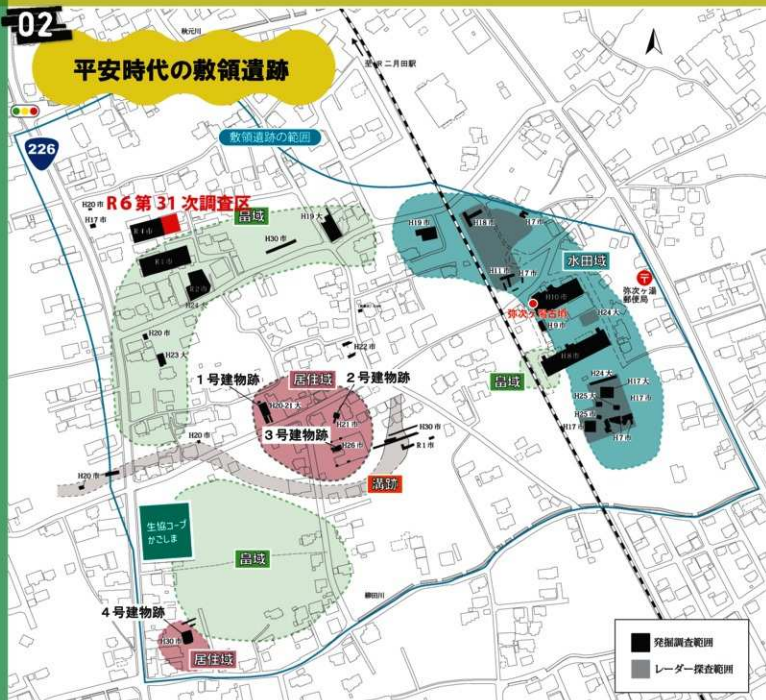
敷領遺跡は、弥生時代から平安時代までの集落遺跡です。これまで指宿市教育委員会、鹿児島大学、お茶の水女子大学によって、30 回以上の発掘調査が実施されています。平成 30 年度からは、指宿市教育委員会が「市営敷領団地建て替え事業」に伴う発掘調査を行っており、今回の第 31 次調査が最後となります。敷領遺跡はこれまで、平安時代の開聞岳噴火による噴出物（紫コラ）で埋没した火山災害遺跡として、また、古代の役所跡の候補地としてよく知られてきました。ところが、近年の発掘調査によって、新たに古墳時代の大規模集落という側面も明らかになってきたのです。



平成 26 年の敷領遺跡発掘調査で発見された 3 号建物跡。写真 (左) のほぼ中央にカマドがあり、古代の鍋が置かれたままの状態で見つかりました。開聞岳の火山噴火による災害を知るための貴重な資料です。

令和元年に出土したてつせいこうたい「鉄製甲冑」。古代の亀ト（きぼく）。古代の占いに使用された道具と考えられる、全国的にも非常に珍しい鉄製品です。

平安時代の敷領遺跡



敷領遺跡では、これまでの調査において、平安時代の建物跡や畠跡、水田跡などが見つかっており、当時の集落景観の復元が進められています。今回の調査区では、北側の壁面で、平安時代の河川跡が確認できたほか、火山礫や火山灰でバックされた葉っぱの化石が見つかり、火山災害の様相を知ることができます。



平安時代の河川跡



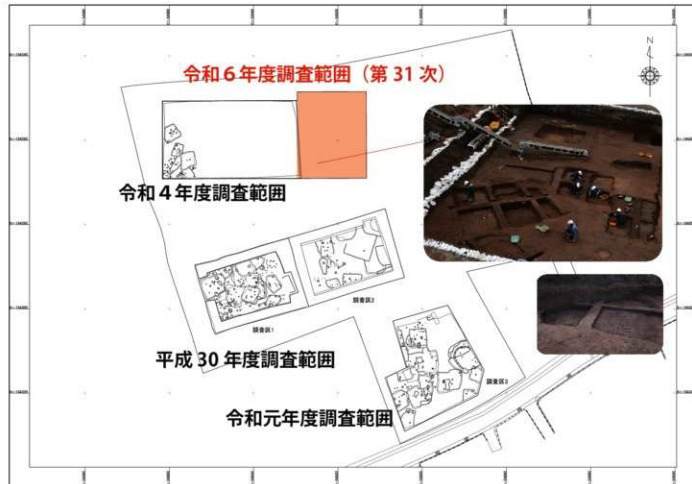
紫コラでバックされた植物化石



古墳時代の敷領遺跡

古墳時代の大規模集落発見！

指宿市内においては、これまで、鹿児島県下でもきわめて大規模な古墳時代中期～後期（5世紀～6世紀）の集落として、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡や、尾長谷迫遺跡が知られていましたが、近年の発掘調査において、敷領遺跡でも約3,000㎡の範囲に計50基を超える竪穴建物跡が発見されたことから、上記の遺跡に並ぶ、古墳時代の大規模集落であることが明らかになってきました。現在発掘中の第31次調査区では、古墳時代の建物跡が6基見つかっています。



古墳時代の祭祀行為を示す遺跡～稀少な鉄器と大量の土器～

平成30年度・令和4年度の発掘調査では、幅10m×長さ60mの範囲に数万点の土器を廃棄した「土器捨て場」が見つかりました。大量の土器を廃棄する慣習は、錦江湾沿岸の古墳時代の集落に共通してみられる特徴であり、特に指宿の遺跡で顕著です。当時の人々が、なぜ大量に土器を廃棄したのかはわかっていません。



土器捨て場調査の様子(令和4年度)